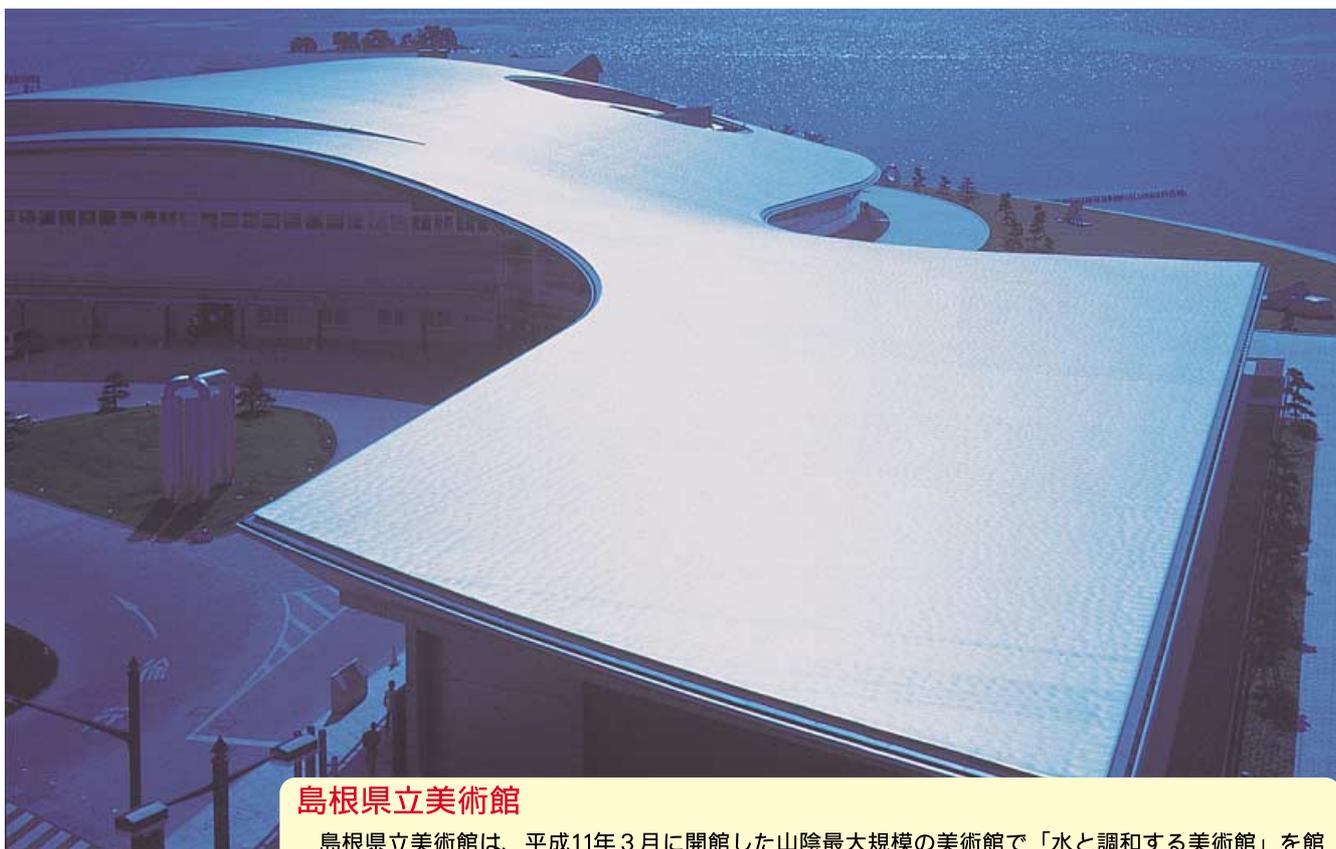




独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 亀崎 卓夫



島根県立美術館

島根県立美術館は、平成11年3月に開館した山陰最大規模の美術館で「水と調和する美術館」を館テーマとしており、水が描かれた作品が多数展示されています。また「日本の夕陽百選」に選定され、穴道湖の夕陽鑑賞には絶好の東南岸の位置にあり、屋上展望テラスの設置や建物の西側が全面ガラス張りで夕陽鑑賞に適した設計となっています。

もくじ

平成23年「年頭のご挨拶」	2	神経難病サロン「だんだんサロン松江」スタート	12
肺疾患懇話会 第100回記念講演会	3	「1階・2階・3階合同文化祭“きらめき祭2010”」を実施して	13
『motivator (モチベーター)』としての院内発表会	4～5	みんなでついたよ おもちつき	13
第1回松江呼吸器セミナーを開催	6	地域医療連携室だより 第3号	14～15
第1回青年共同宿泊研修 (江田島)	7	栄養管理室から	16
医療教育研修室からー憧れの伝染ー	8	絵画奇贈	16
島根県筋ジストロフィー在宅キャンプ in 神戸	9	しじみ会 (十月中秋号 十一月晚秋号 十二月冬号)	16
年男・年女	10～11	松江医療センター元気宣言!	17
くつろぎコンサートを開催して	11	外来診療表	18

基本理念

私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。



平成23年「年頭のご挨拶」

院長 徳 島 武

あけましておめでとうございます。ひとこと年頭のご挨拶を申し上げます。

大晦日から降り続く雪で、山陰は38豪雪（昭和38年冬）以来の記録的な大雪の正月になりました。奥大山スキー場の雪崩惨事や大山町国道9号線での約1000台の車の立ち往生、境港等での小型船452隻の沈没に停電・断水等、雪に翻弄された年末年始でした。しかしその大雪の中を通勤し、当直や病棟勤務あるいは交替勤務を支障なくこなされた皆さん、本当にご苦労様でした。病院では幸い目立った被害はありませんでしたが、近年暖冬のせいで雪のない生活に慣れてしまい、雪の怖さを忘れかけていた山陰人やクルマ社会・電気依存生活への警鐘なのかもしれません。冬はこれからが本番です。今回の教訓を生かし雪害対策を徹底したいと思います。

さて今年はいったいどんな年になるのでしょうか？民主党が歴史的な政権交代を果たしてわずか1年4カ月、政治がこんなに混迷するとは、いったい誰が予想したでしょうか。長い経済不況のなかで、少子高齢化と財政危機に拍車がかかり、ジャパン・シンドロームはまさに国際的な注目的になっています。社会保障の行方も心配です。社会保障制度と消費税率引き上げを含めた税制抜本改革を、選挙を意識した政争の具にしないで、今年こそ超党派でしっかりと協議し、政治責任を果たしてもらいたいと思います。

昨年、財源確保の矛先はわが国立病院機構（NHO）の方にも向いてきました。すなわち事業仕分けの対象となり、3回にわたって厳しい指摘が行われました。その結果拠出金比率の見直しや機構本部・ブロックの事業の見直しが決まり、23年度予算では運営費交付金が対前年度75億円と大幅に削減されました。事業仕分けの評価者だけでなくすべての国民に対して、NHOのこれまでの実績や使命を強くアピールし、その働きを正当に評価されるよう努力することが重要と考えます。

当院においては今年、昭和46年11月に当時の島根療養所と松江病院が統合し、国立療養所松江病院として創立して40周年の記念すべき年です。そしてまた半世

紀に一度の大事業となる病院全面改築の山場である、病棟建替にひきつづく、「総合診療棟」新築の起点となる年です。半年間はおかかると思われる「王子坂遺跡」調査と並行して、新病院の設計をしっかりと院内で検討し、平成24年度の工事着工に備えようと思います。そして今年度は高額医療機器として64列のCT更新と、次に電子カルテの導入、MRI・リニアックの更新が控えています。それら資金確保のカギは、年次計画達成による安定した経営にあります。皆さんひとり一人がそれぞれの持ち場で計画遂行に向けて努力しましょう。

院内に向けて今年のテーマは、昨年に引き続き「チーム医療の推進」であります。昨年は院内発表会を行い職員間の情報交換が行えた有意義な会となりました。また昨年暮れには医師の急な休職や退職がありました。医局の先生方が率先して、筋ジスや重心の患者さんを分担して受け持ってもらい本当に助かりました。どうか今年も、患者さんを中心に、各職種のスタッフが真心と思いやりを持って、温かい医療・看護を提供できますよう、宜しくお願いします。

また院外に向けて今年のテーマは「地域医療連携の推進」です。当院の柱である呼吸器を中心とする急性期医療も政策医療である障害者医療も、これからは地域連携なくしては成り立ちません。医療連携室が中心となり、松江市・島根県域の病院、診療所、介護施設、行政等と綿密な連携を築いていくことが重要です。昨年からはじめた松江呼吸器セミナーや、例年通り肺がんフォーラム、医療連携交流会、健康フェスタ等を通じて院外に広く連携の輪をアピールしていきます。また4月から肺がんの地域連携パスを開始します。また第10回日本医療マネジメント学会島根支部学術集会を9月に主催しますが、そのテーマは「高めよう地域連携と役割分担」です。学会を運営していく中から、みんなで当院の果たす役割と医療連携について検討していきたいと思っています。

また今年の嬉しいニュースとして、4月に臨床研究

部が発足します。これまでの院内標榜から、機構本部承認の正式な臨床研究部に格上げされました。過去3年間の当院の研究実績が評価された結果であり、とても嬉しいことです。予算も増えるし、研究環境はより充実できると思いますので、皆さんの一層の頑張りに期待します。また創立40周年の記念誌を11月の開院記念日に合わせて発刊する予定です。今年も皆さんの

ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2011年が皆さんにとって良い年になりますことを祈念して、わたしの年頭の挨拶といたします。本年もどうかよろしくお願い致します。



肺疾患懇話会

第100回記念講演会

統括診療部長 池田敏和



肺疾患懇話会 第100回記念講演会が、平成22年11月29日に開催されました。当日には31名の開業医の先生と53人の職員にご参加頂き誠にありがとうございました。会場が満席になり盛況のうちに無事終了することができました。

はじめに当院呼吸器科医長である小林賀奈子先生より「非結核性抗酸菌症の診断と治療 - 当院の症例を中心に - 」と題して、最近増加傾向にある非結核性抗酸菌症の診断から治療まで報告させていただきました。次に当院呼吸器外科医長の荒木邦夫先生よりは「大細胞神経内分泌癌の1手術例」と題して、最近注目されています大細胞神経内分泌癌の手術および術後化学療法について報告させていただきました。その後の特別講演は、徳島院長とは大学の同級生であり、国立病院機構九州がんセンター副院長である一瀬幸人先生に講演をいただきました。一瀬先生には「肺癌を見落とさないための胸部X線読影と最新の肺癌治療」と題して、日本肺癌学会理事長、西日本胸部腫瘍臨床研究機構理事や九州肺癌研究機構代表世話人として日本の肺癌治療を牽引されている立場から、胸部レントゲンで肺癌の陰影を見つける“コツ”、低線量CT撮影を用いた肺癌検診の有用性、IV期肺癌の診療ガイドラインについてわかりやすくお教えいただきました。講演の最後には非小細胞肺癌の約5%に認められる遺伝子転座

により融合した活性型融合キナーゼEML4-ALKの酵素活性阻害薬であるcrizotinibが、臨床試験にて有効性が示され、全く新しい分子標的治療をもたらす可能性があると今後期待される肺癌化学療法についてお話されました。聴講された方々にとって大変役立つ講演であったと確信しております。

当院は島根県内で最も多くの呼吸器内科医および呼吸器外科医が診療にあたっており、肺癌や結核をはじめ最も多くの呼吸器疾患を診療しています。しかし、当院のみで呼吸器疾患を診療するのは不可能であり、開業医の先生方と連携し呼吸器疾患を診療することが重要と考えています。引き続き呼吸器疾患懇話会は、呼吸器疾患 up to date や最新の呼吸器疾患に対するガイドラインの紹介、実際の診療経過については症例呈示を行い、呼吸器疾患医療の向上のための情報提供の場としたいと考えております。また、開業医の先生方と共に、より質の高い医療を提供し、地域医療に貢献したいと考えています。

最後に、忙しく診療されているにも拘わらず、呼吸器疾患懇話会に出席していただきました開業医の先生方および呼吸器疾患懇話会の演者を担当していただきました呼吸器内科と外科の先生方のご協力とご努力があったからこそ、呼吸器疾患懇話会が約10年継続し開催できたのだと思います。皆さまに心より感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。



『motivator (モチベーター)』としての院内発表会

呼吸器科医長 門 脇 徹



去る11月6日に開催された第1回院内発表会。発表された方・当日参加

して盛り上げてくれた方々お疲れ様でした。受賞された方々はおめでとうございます！第1回である今回は『各職場の取り組み発表』をメインにいたしました。発表内容も多岐にわたり、裏方であった私自身全体を通して楽しませていただきました。準備に関わった皆様も本当にお疲れ様でした。昨年の1月に開催することが決まり、数名の“準備委員会”のメンバーとともに数ヶ月をかけて準備してまいりました。アンケート結果などの分析については事務部長さんのレポートに委ねます（事務部長さんお願いします！）が、そんな私の第1回院内発表会は『大成功』の一言に尽きると考えています。

私は院内発表会を“motivator (モチベーター)”と位置づけています。motivation (モチベーション、動機付け)という言葉はご存知でしょう。サッカー選手がよく使いますよね？motivatorは“やる気スイッチ+やる気持続装置”と言い換えることができますでしょう。勿論、皆さんはそれぞれの職場でプロフェッショナルとして日々motivationを上げて業務を遂行していることと思います。さて、当院のような中規模病院でも“隣の職場”が何をしているのかが伝わりにくくなっています。歴史のある当院ですから、時の流れにのって専門が細分化されるのに伴い、少しずつ職場間の“垣根”ができていたことは否めないと思います。そして最近ではその“垣根”を取っ払う場もなかった。今回の院内発表会は職場間の垣根を取っ払うことを目標に『職場の取り組み発表』を主たるものとししました。自らの職場を他の職場にアピールすることができ、かつ他の職場の取り組みを見て、肌で感じることで、motivationがあがったことと思います。実際私は皆さんの発表を見させて、聞かせていただき、身震いし、



俗な言い方ですが motivation “アゲアゲ”の状態になりました。私はこの意味において院内発表会は“期待

通り”の結果であり、大成功であったと考えております。

そんな中でもやはり裏方の一員としては反省点も述べなければなりません。準備委員会の一員としての反省点は

抄録の回収作業・抄録集の配布が遅くなった。

ポスター発表にて発表者と参加者の間でディスカッションの場を設けられなかった。

の2点です。

については院内発表会を心待ちにしている方や、スケジュールを把握したい方に大変ご迷惑をおかけいたしました。来年は研究発表主体でいきますので、今年より1~2ヶ月早い始動をすることで対処したいと思います。については、やはりポスター発表も「発表者 参加者」の一方ではなく、「発表者 参加者」の双方向のベクトルが必要だと痛感いたしました。せっかくの発表ですから、来年以降はいわゆるポスターディスカッション形式にして、もっと勢いのあるポスターセッションにしたいと考えています。

そして医療教育研修室長の立場からの反省点の一つ。

若い人をたくさん巻き込めなかった。

この点につきます。若い職員も参加されておりましたが、勤務の都合などで



参加したくても参加できなかった若い職員がいたと思うと残念です。この対策としては、当研修室が講義の際にいつも行っているビデオ撮影を行い、院内発表会についてもDVDを作成することを検討したいと思います。そうすれば、この問題はある程度クリアできるかとは思いますが、ライブ感も重要ですので、実行についてはよく検討したいと思います。もう一つの解決策としては、口述発表における“若手セッション”の創設です。今年のようなタイムスケジュールで動くことを前提とすると、口述発表では各セッション4~5演題で4セッションの構成となると思います。このうち1~2セッションを“若手セッション”としたいと考えております。事例検討や、院外で発表を控えた研究などをどんどん発表していただきたいと思えます。若い方の力は当院にとって大きな力の源となります。若手職員には来年の院内発表会での奮闘を期待しております！

さて、この原稿を書いているのは11月26日。終了後1ヶ月経たない現時点で実は来年の院内発表会（2011年11月5日（土）開催が決定！）の特別講演について検討に入っております。第1回の特別講演（青山先生）の話はすばらしく面白く、そして心に響く内容でした。私のmotivationが著しく上がったのは本号の別の記事を読んでいただければよくわかると思います。来年の院内発表会でも職員のmotivationを上げるような内容の特別講演を企画しております。詳細は決まり次第お知らせしたいと思います。お楽しみに

ところで、第2回院内発表会は研究主体の内容したいと思います。口述発表については、前述のように1～2セッションは若手主体（研究発表）。1セッションは業務改善、残りをそれ以外の研究発表に当てたいと思います。ポスター発表についても研究発表主体でディスカッションの場を設けます。

となるとおそらく国立病院学会の縮図のようなもの

になることをイメージできると思います。まずはそのレベルに持っていきたいと考えております。来年以降も『院内発表会 = motivator』となれるよう裏方として支え続けたい…。そんな風に思っています。

最後に、第1回院内発表会の準備・参加・発表していただいた全ての方に敬意を表すると共に感謝をして筆を擱きたいと思います。本当にありがとうございました！



追伸

来年も私からの“特別賞”があります。今年は「佐藤 黒」でした。来年どうしようかなあ？なんて今から考えるのが楽しかったりします。

● ● ● 第1回院内発表会の結果報告 ● ● ●

第1回目の院内発表会を行い、次回開催の参考にするため参加者と当日世話をされた職員にアンケートを行いました。その結果報告です。

参加者アンケートでは、参加者114名に対しアンケート用紙は49枚（うち2枚は全くの白紙）の回収でした。

下表が回答状況です。％は回答者数を基にしたもので全体を示したものではありませんが、下表から見限り良い評価をいただいたと思います。

また、全体構成の質問で「悪い」という回答が1名ありましたが、これは、特別講演の前にバタつき何人かの参加者が帰られたことから発表会をより良くするための具体的な意見が記されていました。

質問項目	評価			回答数
	長い	短い	適当	
実施時間について (10:00~15:00)	1	0	4 4	4 5
	2. 2 0 %	0 %	9 7. 8 0 %	
個別発表時間について (5分発表、3分質疑)	1	4	4 0	4 5
	2. 2 0 %	8. 9 0 %	8 8. 9 0 %	
各セッションの時間について (40分)	0	2	4 3	4 5
	0 %	4. 4 0 %	9 5. 6 0 %	
特別講演の時間について (1時間)	0	3	3 4	3 7
	0 %	8. 1 0 %	9 1. 9 0 %	

質問項目	評価		回答数
	良い	悪い	
全体の構成について (セッション4本、特別講演)	3 5	1	3 6
	9 7. 2 0 %	2. 8 0 %	

次に、当日世話をされた職員のアンケート（意見）の結果は、良かったという意見や反省点が多々ありましたが、次にほんの一部を載せます。

1. 運営方法について

改善点・反省点

- ・ワイヤレスマイクの本数を増すこと。
- ・実施の周知が行き渡っていない感じがある。
- ・抄録をもう少し早い時期に配布すること。

良かった点

- ・一部署に複数人配置であり、世話しながら聴講に参加できたこと。

2. その他気づき

- ・参加者が協力的であったことが良かった。（発表会の目的達成です。）
- ・ポスター発表も掲示だけでなくディスカッション出来たら良かった。

第1回松江呼吸器セミナーを開催

医療教育研修室 杉谷 美奈子

第1回松江呼吸器セミナーを、平成22年12月4日(土)に松江テルサで開催いたしました。90施設・226名の沢山の参加者でした。当初は、対象を100名程度と予想し、その大きさの会場を予約していたのですが申し込みが殺到し、会場が一杯になりお断りしなければならぬ状況でしたが、テルサホールのキャンセルが出たためにお断りした方にも連絡して参加していただくことができました。

テーマは、『排痰のコツ教えます!』ということで、呼吸器専門病院である当院の得意とする排痰について行いました。医療教育研修室では、マニフェストとして2年の今年院外に向けての研修をあげていました。昨年は、『排痰コントロールの実際』というテーマで院内研修会を行い院内で沢山のスペシャリストがいらっしゃることを実感しました。それを土台にして今年度は、医療教育研修室の門脇医師と呼吸療法認定士を持っている平野PT・松岡看護師長メンバー2名が講師で、アンケートを取ったり何カ月も前から準備をいたしました。内容は、排痰は専門的知識とテクニックが必要であること、吸引が出来る職種が広がったこともあり好評でした。

院長先生・副院長先生の挨拶、看護部長の座長と病院挙げて支援いただきましたことも大きな力でした。今回、地域医療連携室と医療教育研修室の共同で開催いたしましたが、急な会場変更、役割の変更にもチームワーク良く対応出来ました。

今後も、当院の専門的知識を院外に向けて発信していこうと思っています。

第1回松江呼吸器セミナー講師をして

松岡 芳江

平野 哲生

まず無事に終わることが出来てホッとしております。なにせ院外の講師を務めるのは初めてで、あの会場と人数!!新人歌手でいうところのデビューが東京ドームでしょうか。会場でご覧いただいた方はわかるでしょうが、緊張して水を飲む手が震えていました。

門脇先生に強く背中を押された講師と言う大役でしたが、今はやってよかったと思います。いい経験になりましたし、その後も反響があり嬉しい限りです。

今回、門脇先生、医療教育研修室のスタッフ、その他大勢の皆様のご協力、ご声援をいただきまして本当にありがとうございました。

「看護師が伝える排痰のコツ」についてお話をさせてもらいました。吸引が介護・リハビリの現場でも行えるようになったということから、多くの介護・リハビリ関係者に参加して頂き、学習意欲の高さを痛感いたしました。今回は気管吸引のガイドラインを紹介し、吸引の基本をお話ししました。気管吸引には、感染リスクが伴います。吸引回数を少なくして感染予防をはかることが大切です。そのために痰がどこにあり、どうやったら動くかを考えて下さい。病院内での吸引と家庭での吸引ではカテーテルの管理や吸引のタイミングなど同様ではないことがあります。セミナー終了後、質問もいただきましたし、インターネットでもカテーテルの単回使用について議論されています。松江市近郊での在宅でのカテーテル管理の実情について調査させてもらいたいと考えています。経済面・衛生面で最適なカテーテル管理の方法を提案し、参考にいただける情報を発信したいと思います。

第1回松江呼吸器セミナー

テーマ 排痰のコツ教えます
 日時 平成22年12月4日(土) 14:00~16:00
 場所 松江テルサ テルサホール
 プログラム
 開会の挨拶
 松江医療センター 院長 徳島 武
 講演
 座長 松江医療センター 看護部長 三宅弘恵

「医師が教える排痰のコツ」
 呼吸器科医長・医療教育研修室長 門脇 徹
 「理学療法士が教える排痰のコツ」
 リハビリテーション科 理学療法士 平野 哲生
 「看護師が教える排痰のコツ」
 4階病棟看護師長 松岡 芳江
 閉会の挨拶
 松江医療センター 副院長 矢野 修一

第1回青年共同宿泊研修（江田島）

第1回青年共同宿泊研修（江田島）に参加して

1階病棟療養介助職 大賀 純

10月4日（月）から10月7日（木）に江田島研修がありました。今回の研修を受講するに当り私は自発性を持って行動することを重点に参加しました。そこで私はサブリーダーを担当しました。今回の研修ではサブリーダーとして大きな仕事はあまり無かったが、リーダーの補佐役としての役割を果たしたと思います。また、最終日の前日に夕べの集いで司会をさせていただきました。私自身人前で話をすることが苦手で、今まで避けてきたのですが今回の研修では落ち着いて司会ができ、本当に良い経験が出来たと思います。

研修初日はなかなか他の研修者とのコミュニケーションが図れていなかったが、意見交換会を通じたくさんの他職種、他施設の研修者とコミュニケーションが図れるようになりよかったです。

研修2日目の午前中の業績評価制度の概要の講義では今まで理解しているつもりで目標を設定したり、評価を行っていたが、自己評価の際の着目点を再確認できたと思います。また、業績評価導入の背景も再認識できたと思います。経営現状についての講義では、自病院の経営現状は周知していたが他施設の現状を知らなかった。この講義では業績のいい病院がなぜ業績が良いのかをその施設で働いている職員に直接質問してみるといった講義でわかりやすかったと思います。レクリエーションのソフトバレーでは普段運動していないためなかなか思うように体が動かなかったが、同じ班のみんなと協力ができ、よいチームワークが生まれたと思います。その後の野外炊事でも、そのチームワークでとてもおいしいカレーができ、楽しい時間を過ごせたと思います。

研修3日目の午前の医療課のこと看護のこの講

義では、チーム医療を行ううえでお互いの仕事を理解することが大切であることを学んだ。メンタルヘルスの講義では実際に体を動かしてのセルフケアを学び今後実践していきたいと思いました。午後のカッター研修では厳しい指導官の元で規律正しい行動、同じカッターに乗った研修者同士のチームワークをはじめカッターに乗っている全員の息が合っていないとカッターが前に進まないことから医療も共通の目標に対してスタッフ一人ひとりの力を合わせていくことが必要である。そのことがチーム医療ではないのかと思いました。

研修2日目、3日目の班別討議、発表では私自身の考えていることを同じ班のメンバーに伝えたり他業種の職員の思いを聞くことにより、国立病院機構の理念である健全な経営について話し合うことができ、自分たちの思う健全な経営について発表ができたと思います。

研修最終日の明るく元気に仕事をするためにの講義では勤務日や勤務時間、休憩時間についてのルールが事例をもとに話をされたのでわかりやすかった。また、休暇については知らないことばかりで学びが多かったです。この講義でも職場でのコミュニケーションが大切であることを学びました。

今回の研修ではスタッフ間のコミュニケーションがよりよい職場環境を作るだけでなく、チーム医療の推進につながり患者様にも職員にもより良い病院になるのではないかと思います。職種、職場が違っても情報交換をすることがないため今回のような研修に参加できて本当によい経験になったと思います。これからこの研修を続けていき私と同じような貴重な経験を他の職員にもしてもらいたいです。最後に今回の研修で学んだことを職場に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

青年共同宿泊研修を終えて

3階病棟看護師 廣江 麻記子

中国四国ブロック内の国立病院機構で働く44人と広島県の江田島で10月4日から10月7日までの3泊4日の宿泊研修に参加しました。研修は、経営現状やメンタルヘルスなどの講義からソフトバレー、カッター訓練、野外炊事などあり、楽しく研修に参加することができました。また、班別討議では、国立病院機構の理念について討議し、参加者の考えや意見

に考えさせられることが多くありました。カッター訓練では7～8km漕艇し、協力することやり遂げることの大切さを再認識しました。普段他の職種の人たちと会話する機会は少ないですが、研修では年齢や職種に関係なく、お互いにプライベートから仕事のことまで深く話しをすることができ、素敵な人たちと研修できて良かったと思いました。

今回の研修で感じたこと、考えたことを大切に今後看護に繋げていきたいと思いました。

医療教育研修室から

— 憧れの伝染 —

呼吸器科医長 門脇 徹

寒くなってきました。今回の『穴道湖』には第1回院内発表会についてのレポートがいくつかあることでしょう。準備に携わった方々、一生懸命発表して下さった方々、そして当日参加して盛り上げてくれた方々…。本当にお疲れ様でした。裏方として関わった者として、皆様から感謝いたします。当院の潜在能力の高さを再確認することができ、すばらしい発表会だったと思います。この院内発表会の詳細は他のレポートに譲りたいと思いますが、特別講演の青山先生(NHO岡山医療センター名誉院長)の話聞きながら、こんな言葉を思い出しました。

『教育の根底にあるのは憧れの伝染である。何ものかを価値あるものと認め、そこに心のエネルギーを注ぎ込む。何ものかを目指して飛ぶ、矢のようなベクトル。それが憧れだ。心引かれるものであるからこそ、努力しようという向上心が湧く。憧れが根底にあるからこそ、技を習得する意欲も生まれる。』TVでもお馴染みの齋藤孝氏(明治大学教授)の『教育力』(岩波新書)の冒頭の一節です。

この一節の後に著者は、教育を施す側が何かに対して憧れを抱いていないと教育を受ける側には何も伝わらない、と言い換えています。私も同感です。

突然ですが、若い人を指導する立場にある方に質問です。

- 若い人に直接教え伝えることができなかつたとしても『自分はこうありたい』とか『もっとレベルを上げたい』とか、若い人に伝わるような情熱を持っているでしょうか？ -

これって口に出していなくても自分の周りにはおそらく伝わっています。指導する立場の方々のpositiveな発言・行動は若い人に“憧れの伝染”を生みます。この“憧れの伝染”状態になっていくことは正に院内で優秀な人材が豊富であること、そして人材が育っていることを示すと思うのです…。

そして、この原稿を読んでいる若い方に質問です。

- 何かもしくは誰かに“憧れ”を抱いているでしょうか？ -

『 さんのように処置が上手になりたい』

とか、

『 さんのように人前で上手に発表できるようになりたい』 などなど…。

そういう思いを持っているかどうかというのは極めて重要なことです。私も研修医時代には『早く一人前になりたい!』と強く思っていましたし、身近に知識も技術もすばらしい先輩Drがいたので、『早くこのレベルまで行きたい!』と強く思っていました。この思いが自分の“今”につながっていると信じています。研修医1年目には毎日0時を回っても病棟にいました。カルテを書いたり、同期のDrと議論したり、大学の図書館に夜中に鍵を開けて忍び込み、必要な文献をコピーしたり…。夜中の大学図書館は真っ暗闇で怖かった…。これも今となってはいい思い出です。週末もほとんど病棟にいました。家に帰っても暇があれば教科書を読んだり、論文を読んだり…。ポリクリ(臨床実習)学生の指導に夜中の2-3時まで付き合うこともしばしば。今でこそこうしてこたつにあたりながら大好きな芋焼酎を飲みながら、原稿を書く余裕も出てきましたが、それはやはり若い頃の“憧れ”があつてこそ、ここまで頑張つてこれたからだと思うのです。勿論“一人前”にとどまらず、これからもっと高みを目指して頑張っていきたいと思っています!

医療教育研修室のコンセプトは『スタッフ教育に関してコーディネーターであり、かつ知識・技術向上のためのプロデューサーであること。』です。皆さんの“憧れ”の実現のお手伝いができれば本望です。来年度の医療教育研修室が提供する講義・研修は方向性を変えていきます。発足して2年間の経験と反省を反映させます。講義主体から参加型のワークショップ形式へ徐々にシフトしていきます。これは院内の教育部門として知識を提供することは勿論重要と考えていますが、受動的で質問の出ない知識提供型講義では、“知識の垂れ流し状態”であり教育効果があまり上がらないのでは?、と考えたからです。その場ではわかつたような気になつても、それが現場で生かしているかどうか…。これは教育を施す側にとっては相当難しいテーマです。難しいテーマだからこそやりがいがあるわけですが、従来のやり方(知識提供型講義のオンパレード)では、当研修室も成長がない、と思っています。

病院全体として更なる高みを目指すには、勉強をするときにもコミュニケーションを活発化させ、一つのテーマについて誰かときちんと議論する、議論できる、ということが必要なのです。このことはおそらく当院スタッフに最も重要なことだと考えます。そしてこれらをクリアしつつ参加者が楽しめる講義・研修にしなくてはなりません。かなりハードルが高くなりますが、

それらを提供することが『コーディネーター』と『プロデューサー』である医療教育研修室の仕事であり使命なのです。来年度当研修室が提供する講義・研修についての詳細は次号に記したいと思います。ぜひご期待ください！

医療教育研修室は情熱を持って、教育を続けていきます。皆さんも一緒に高みを目指していきましょう！

島根県筋ジストロフィー在宅キャンプ in 神戸



ルミナス神戸

昭和50年から始まった「島根県筋ジストロフィー在宅キャンプ」は、今年36回目を迎えました。今年度は「神戸」を会場に、ディナークルーズなどのレクリエーションを取り入れ、また今年も、国立精神・神経医療研究センター病院名誉院長 埜中征哉先生をお招きし、進行性筋ジストロフィー治療の最新情報についてのご講演を頂くなど、有意義なキャンプとなりました。

初夏から続く猛暑は3か月続き、9月11日（土）～12日（日）の両日も蒸し暑い日となりました。在宅患者さん16名を含む総勢48名は、松江市交通局のリフト付大型観光バスに乗り込み、11日の12時に訓練センターを出発しました。このバスは、昨年12月登録の新車で、乗り心地も良く、乗り降りも大変楽で、約4時間の行程も快適に過ごせました。一行は宿である「パルシティー神戸」に到着し、東京からお招きした埜中先生と合流しました。ディナークルーズ出発までの2時間、埜中先生、下山リハビリテーション科医長、齋田小児科医長など医療スタッフによる「医療相談」を行い、病気の進行による不安やリハビリの相談などをお受けしました。

療育指導室長 吉岡 恭一

今回のメインのレクリエーション「ルミナス神戸 “ディナークルーズ”」は19時に出航しました。ステーキバイキングを楽しみながらのクルージングは、日常を忘れさせるような2時間で、大阪湾、明石海峡などを巡り、神戸の夜景を存分に楽しむことができました。

翌12日は、午前9時より「筋ジストロフィー治療研究の進歩」と題し埜中先生よりご講演を頂きました。治験間近のデュシェンヌ型を中心とした遺伝子治療を分かりやすく解説いただき、参加者の皆さんには大きく希望の光が見えた講演会となりました。講演会の後は、ハーバーランドへ移動し昼食とショッピングを楽しみ、松江へ帰ってきたのは、夕暮れも迫る頃。みなさん口々に楽しかった思い出を交わりながら帰宅されました。



研修会

遺伝子治療の開始が間近となり、筋ジストロフィー医療の拠点としてますます重要性を増す国立病院機構の各施設。当院においても、山陰のみならず中国地方の拠点として、医療や相談支援の体制強化の重要性を実感した2日間でした。



年男

年々を迎えて

3階病棟 看護師長 山崎 みどり

新年明けましておめでとうございます。

昨年4月に松江に転勤し、早いものであったという間に寅年も終わってしまいました。今年は卯年です。うさぎは、よい方向に進む躍動感ある生き物であり、進歩のある年とされています。景気も合わせて明るいニュースがたくさんある年になってほしいと願います。

私は、鳥取県（因幡地方）出身の、何回目かの年女です。童謡などでも『因幡の白うさぎ、うさぎと亀、かちかち山』等うさぎが登場しますが、どちらかという性格は、亀の方です。着実に一步一步前進する年にしたいと思います。

私は今、2匹の亀を飼っています。鳥取医療センターの池で生まれた亀です。千ちゃん百ちゃんと名付け、宝くじが当たってほしいと願い、夢を買っています。

年初にあたって色々行いたいことがあります(仕事のことは別として)。美味しいものを食べ、旅行に行くことです。何事も綿密な計画を行い、実行したいと思います。

ところで、『足るを知る』という言葉があります。今、幸福であることに感謝し、現状や自分をよく知るとの意味もあるようです。

現代は、物は豊かにあふれ豊食の時代です。病棟でもプチNSTが活躍し患者さんの体重などの健康管理を行っています。回診の都度、私自身も...と身につまされています。

今年こそは健康（ダイエット）も考えながら計画的な食生活を送りたいと思います。皆様も幸多い一年で健勝を祈念いたします。



年女



年々を迎えて

4階病棟 看護師 盆子原 由香

私は呼吸器内科に勤務して、もうすぐ2年が経ちます。まだまだ未熟で、忙しい日々で落ち込むことも多々ありますが、就職したての頃と比べると、出来るようになった事も増え、また、たくさんの患者様と関わる事が出来、充実した毎日を送っています。毎日教えてもらうことも多く、看護師としてだけでなく人間としても、もっと大きく成長していきたいなと思っています。少しでも早く自分の理想の看護師に近づく様、初心を忘れず日々頑張っていきたいと思っています。

今年の抱負

児童指導員 市河 裕智

3回目の年男を迎えました。この原稿を書いているとき、12年前は何をしていたのかな？と、ふと思いました。確か...地元広島 of 機器営業会社で主に建設会社への営業をしていた頃だったでしょうか。社会人として数年が経ち、妙な自信があったあの頃、何やら先輩に生意気なことをバンバン言っていたことや、憧れの大先輩と一緒に仕事をしたくて、回りをちょろちょろしていたことを思い出しました。少し脱線してしまいましたが、今年は体重を落とし、健康に気を付けて過ごすことや、地域のイベントなどにも積極的に参加してみたいと思っています。

新年を迎えて

栄養管理室栄養士 香田 早苗

新年明けましておめでとうございます。

また年女になったのですが、前回は、仕事、嫁、母、妻と忙しい日々を送っていた様に思います。今もあまり変わらないのですが...。松江にお世話になり4年、今年も前向きに頑張っていきたいです。管理棟が平成25年に新築の時、厨房も新しくなります。厨房機器も新しくなるので、それに向け準備を進めて行きます。4月からは栄養のメンバーも変わり業務委託も多くなります。変動の年ですがみんなで乗り越えて行きます。今年もよろしくお祈りします。m(_ _)m

今年も頑張りま〜す！

1階病棟 副看護師長 宅和 栄子

ついこの間、前回の年女の原稿依頼を受けたと思ったのに、「えっ、また年女??」一日一日はそうでもないですが、振り返れば一年が過ぎていくのがとても早く、怖いぐらいにどんどん歳をとってしまっているなあと感じます。就職当時、定年退職を迎えられた大先輩方を送りながら、ひそかに目標は『無事に定年退職を迎えること』と考えていました。しかし世の中は大きく変わってきて、働き続けることも生活していくこともいろんな意味で大変になってきました。とても定年まで頑張れる自信はありませんが、病院も新しくなり患者様にとっても、働く私達にとってもずいぶん快適になりました。まだまだ変わっていくということ、もうちょっと頑張って変化していく松江医療センターを見ていきたいと思っています。昨年から新しい病棟に換わりやっと少しずつ慣れてきました。今年の目標は当たり前前のことですが、少しでも多く笑顔でいられるようにしたいと思います。今年もよろしくお祈りしま〜す。

年女を迎えて

療育指導室 保育士 木村 洋子

明けましておめでとうございます。

節目である5回目の年女となりました。前回は何を

考えていたのか思い出せず、次回はあるのかと少々不安になりつつもあります。これからは、適度に体を動かして、少しは頭も使って、時には人のおしゃべりを楽しみ、一人でも楽しめる趣味も持ち、のんびりと過ごし、健康で次回のウサギ年を迎えることが出来ればいいなと思っています。

今年の抱負

企画課契約係 江草 慶一

今年の抱負は「何か新しいことを始める。」にしましょう。採用されてから9ヶ月が経ち仕事も生活も大分慣れてきたころです。そろそろ新しい一歩を踏み出したいですね。今の仕事ももっと効率的・効果的になるように考えていきたいですし、他にも資格の勉強や新しい趣味とかも見つけたいです。もちろん、まだまだ仕事は完璧ではありませんが、毎日同じ事を繰り返すよりは少しでも進歩のあるほうがやりがいがあると思います。私たち62年生まれはゆとり世代の一代目。バブル崩壊後の失われた10年が少年時代。学生だった頃は実感なき成長、そして就職は氷河期です。物心ついた頃から寒い時代を生きてきたわけです。だからこそ、将来の日本を支える現役世代になってしまった今、少しでも前向きな気持ちで、向上心を持って生きていくことが大切じゃないでしょうか。2011年は本当に熱くなればいいですね。

くつろぎコンサートを開催して…

副看護部長 坂本 節子



11月19日（金）14時から5階病棟のディルームで、看護部主催のくつろぎコンサートを開催いたしました。秋も深まり紅葉が目にあざやかに移る季節、芸術の秋でもあります。今回は、声楽家の周藤喜美子さん、古屋孝子さん、ピアノ演奏に矢野玲子さんをお招きしました。

ピアノ演奏に乗せて周藤さんと古屋さんの美しい歌声が病棟に響き渡りました。最初参加者の少なかったディルームも、美しい声にひかれ患者さん達が次々とお部屋から出てこられました。気がつくと50脚ほど準備したイスが足りなくなるほど参加してくださいました。障害者病棟からも、家族や職員と共に参加していただきました。退院した患者さんの顔も見られました。ディルームが暖かい雰囲気につつまれ、歌声にうっとり皆さんが聞き入っていました。短い時間少しでもゆったりとしたひとときを過ごしていただけたのではと思います。

後半は懐かしい「もみじ」・「みかんの花咲く丘」を、患者さんと一緒に合唱しました。

次回は1月に落語会を予定しています。看護部として患者さん達が少しでもくつろぎが得られる時間を作っていきたいと考えています。

神経難病サロン

「だんだんサロン松江」スタート

神経内科医長 足立 芳樹

今年9月9日木曜日に神経難病サロン「だんだんサロン松江」がはじまりました。小児科外来近くの栄養相談室にて毎月第2木曜日の午後開催されます。第1回だんだんサロンには、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者さんやご家族の他、肺がんサロンの方、筋ジストロフィーの患者さんなど多数の方が参加されました。報道関係の方も多く、華やかな雰囲気の中、スタートしました。このサロンを企画されたのは、ALSの患者さんの谷田人司さんです。ご自身もALSのため移動に電動車椅子が必要で、人工呼吸器を常に使っておられます。コミュニケーションには文字盤や「伝の心[®]」(コンピューターを用いたコミュニケーション・ツール)が必要で、この会でも奥様が予め谷田さんが作られた原稿を読まれたり、文字盤での通訳をされていました。谷田さんは、報道機関に勤めておられ島根県の肺がんサロンの取材もしてこられました。今回は、谷田さんがかかわってこられた肺がんサロンの方が、逆に谷田さんのサロンをささえようとしておられるのが印象的でした。「一人で悩んではいけません。手を取り合って共に生きていこう。」言葉ではなく、サロンの空気がそう感じさせてくれました。

サロンに参加しているときに、ふと10年前のことを思い出しました。私が、ロンドン大学神経研究所(Queen Square)に留学していたとき、ケンブリッジ大学の近くのパブで物理学者のホーキング博士を見かけました。奥様に車椅子を押してもらいながら、学生さんたちと熱心に会話をしておられました。ケンブリッジ大学の物理学の教授としてALS発症後も研究や講義もしておられ、著書も沢山書いておられます。ALSは全身の筋肉が痩せ、動くことも食べることも呼吸をすることもできなくなる病気です。通常発症から数年から10年で十分な呼吸もできなくなります。この病気によって知能や意識が障害されることは少なく、頭脳は明晰で、患者さんによっては逆に研ぎ澄まされてくるような印象さえします。

ALSの患者さんは残存している手足の機能が低下すると移動が難しくなります。症状が強くなると、ある場所に定期的集まるのは困難か

と思います。しかし、特に発症して間もない患者さんにとっては、病気のことや介護、受けることができるサービスなど患者様同志の情報交換の場として貴重な場になると思います。「神経難病」はALS以外にもパーキンソン病や脊髄小脳変性症、多系統萎縮症など多くの病気がふくまれます。神経難病サロンは全国にいくつかありますが、全国的にもALSを主体とした難病サロンは他に例がないということです。当院のALS患者さんだけでなく、この地域あるいは県内外の患者様の情報交換の場としてご利用いただければと思います。



神経難病サロン

だんだんサロン松江

患者同士で悩みを語り合う
闘病のノウハウを情報交換
時には医療関係者を変え意見交換

↓
前向きな療養生活

場所 松江医療センター小児科外来前
(肺がんサロンの部屋です)

日時 第2木曜日 午後2時～4時

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者をはじめとした神経難病の患者・家族を主な対象としています。入院中の方、通院の方、他病気で治療を受けている方、闘心がある方はどなたでも歓迎します。悩みを語り合ったり、闘病経験を交換したり、時には医療関係者を変えて勉強会を開きながら、前向きな療養生活を目標しましょう。

連絡先 谷田人司 (ALS患者) TEL/FAX 0852 (25) 3952
e-mail taniyan@earth.ocn.ne.jp

「1階・2階・3階合同文化祭“きらめき祭2010”」を実施して

主任保育士 谷口和子



10月3日(日)「“きらめき祭2010”～みんなの気持ちをひとつにつなごう～」を開催しました。実行委員長は1階病棟の沖野徳行さんで、実施までに数回にわたり、各階の実行委員が集まり話し合いを行いました。

午前は体育館で矢野副院長のオープニング挨拶、重症児・筋ジス患者さんによる「風になりたい」の歌や楽器演奏があり会場が盛り上がりました。その後、訓練センターで模擬店があり、重症児(者)病棟家族会・筋ジス家族会などのみなさんによる「ちらし寿司」「焼きそば・カレーライス」「コーヒー」「赤天・フランクフルト」「たこ焼き」「綿菓子」の出店があり、一時、食券売り場に長蛇の列ができましたが大盛況でした。イースト記念美術館では作品展示・即売があり、たくさんの参加者、来場者の方々にすばらしい作品を

見学していただきました。デイケアプレイホールではTシャツの展示・即売や、今年は体験コーナーを設けました。

午後からは、松江を中心に活躍しておられるシンガーソングライターの六子さんに来て頂き、体育館において「六子LIVE」を行いました。病棟で作ったコスモスの花を持参して曲に合わせて振ったり、「絆」の曲の中に「エッサッサー」の掛け声に合わせてコスモスの花を上げて会場が盛り上がりました。六子さんのすばらしい歌声は30分間という短い時間でしたが楽しむことができ、音楽を通して会場のみなさんの気持ちが一つにつながったように思いました。



最後になりましたが、今年もたくさんのご家族の参加、ボランティアのご協力により文化祭を大盛況に実施する事ができました。有り難うございました。

みんなぞついたよ おもちつき

さくら保育園 森井美代子

松江医療センターのさくら保育園では、職員10名と現在35名のかわいらしい子ども達が通っています。日頃は、園環境がより良くなるようにと保護者の方、管理課の皆さんいろんな角度から見守っていただき大変お世話になっています。今年は12月2日にお父さん、お母さん、管理課の方にご協力してもらい餅つき大会をしました。餅つきは子ども達には大好評。毎年12月に実施しています。沢山の人が集まって来ると子ども達は楽しそうでした。

このたびは、ユーモアあふれる自己紹介を交え、寒さも和らぐ雰囲気の中で10kgの餅米をみんなで搗きました。

「ヨイショ！ヨイショ！」の大きなかけ声と共に重たい杵を振り上げ、カー杯の子ども達でした。カメラを完全に意識した思い出ショットもバッチリ！撮れま

した。つきたてのお餅は、行列ができるほど大人気で甘みたらし味でいただきました。年の締めくくりとして、また、新しい年を元気で迎える節目として、皆さんの笑顔があふれ、寒さを吹き飛ばす楽しい一日でした。



餅つき



地域医療連携室だより 第3号



2011年 1月
 本年もよろしくお願ひ申し上げます

第4回地域医療連携交流会を開催しました。

第4回地域医療連携交流会を開催して

地域医療連携室係長 内田 教子

平成22年10月21日(木)松江東急インで島根県医師会の先生方をお招きして「第4回地域医療連携交流会」を開催いたしました。医師会の先生方にはご多忙中にも関わらず42名の参加をいただきました。

徳島院長の、松江医療センターが医師会の先生方との連携に支えられている事、またこの会がさらなる連携を図るために有意義なものになるようにとの挨拶より始まりました。

小村島根県医師会副会長、野津松江市医師会副会長よりそれぞれ、医師会を代表して当院へ今後の発展の激励の挨拶を頂戴いたしました。

各診療科（神経内科・小児科・外科・内科）の後、池田診療部長の乾杯の発声で懇親会が始まりました。医師会の先生から「医師会と病院の関係改善を図って欲しい」「積極的に開業医と交流を図られる貴院の姿に好感がもてます」等々当院への忌憚のないご意見やお褒めの言葉を頂戴し、地域での当院への期待感を強く感じました。「今後もこのような会を継続して欲しい」との声もあり、交流会の持ち方をさらに検討し開業医の先生方のニーズに叶う交流会を今後も開催致したいと思ひます。

これからも交流会を通し、松江医療センターを地域の先生方にご理解いただき、また開業医の先生方のご意見を伺いながら、患者さんに切れ目のない医療を提供するよう、地域医療連携に努めて参りたいと思ひます。



院内ポスター発表をしました。

平成22年11月6日院内ポスター発表をしました。その中より一部ご紹介します

退院支援、調整のプロセス

今後の取り組みとスタッフ紹介

今後の取り組み

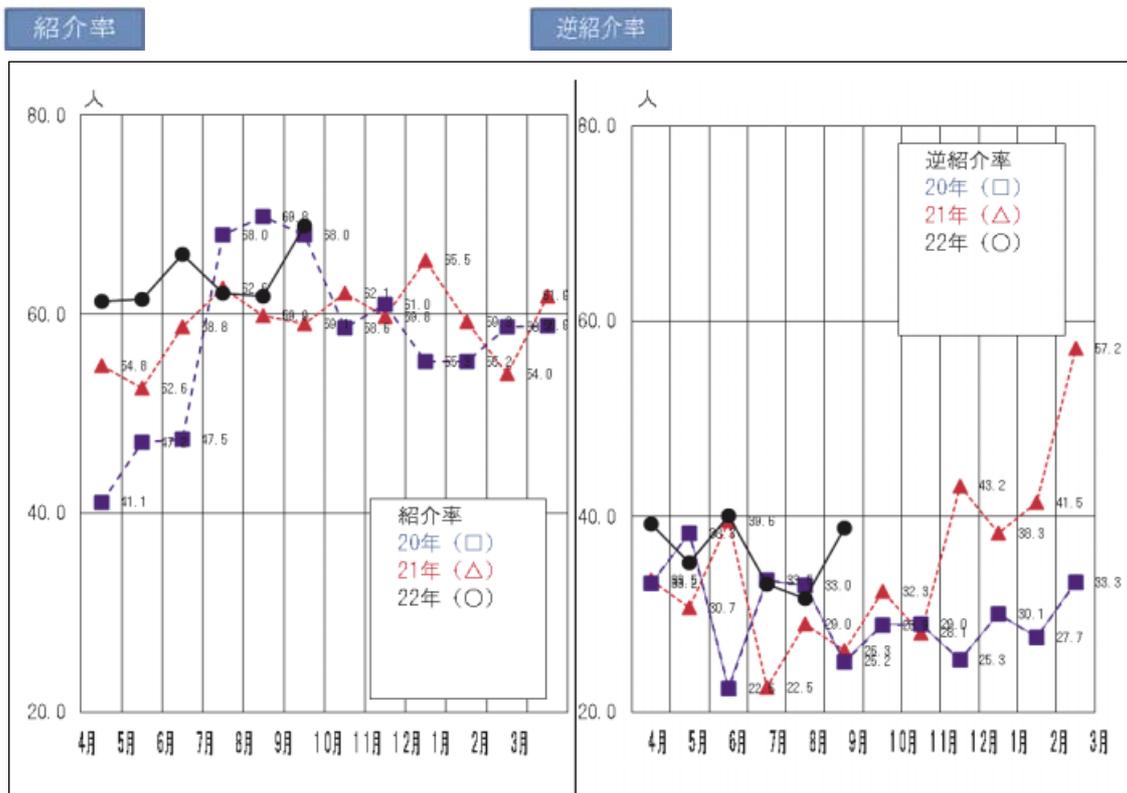
- ・地域医療連携バス肺がんへの取り組み
- ・がん相談窓口の強化
- ・現在研究中の「当院の地域への広報活動の実態調査」仮テーマのまとめ発表
- ・第1回松江医療センター講演会「松江呼吸器セミナー」開催と地域向けの研修会の継続実施の支援
- ・企業連携の対象を広げ「肺がん検診(ヘリカルCT)」「禁煙外来」「睡眠時無呼吸外来」の患者数の増を目指す。
- ・同僚と共に退院支援に取り組むことができるよう「退院支援は病棟から」という意識を高める関わりへの取り組み

○ スタッフ紹介

一日5回smileでpositiveに取組んでいます。

マスコットキャラクター

紹介率・逆紹介率の推移



退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
退院支援患者	32人	33人	39人	37人	32人	27人	32人
退院先							
在宅	7人	9人	5人	8人	6人	6人	5人
施設	0	2人	2人	2人	0	3人	0
病院	3人	3人	5人	2人	2人	3人	5人

栄養管理室から

嚥下食に新しい献立を追加しました

栄養管理室 栄養士 今津 健一

当院では、嚥む・飲み込むなどの咀嚼嚥下機能が低下した方のために、柔らかいけど形が有り飲み込みやすく工夫した食事（嚥下食）を提供しています。

今回は、調理師が考案し、2010年12月から新たに追加した献立について紹介します。

○スパニッシュオムレツ・・・泡立てた卵にペーストした材料を加えて蒸す事で、柔らかく仕上げました。

○ハンバーグ・・・硬くて口の中でボソボソしやすいお肉を、滑らかに仕上げました。

○リンゴゼリー・・・滑らかなゼリーにおろしりんごを混ぜ込んで、食感にひと工夫しました。

○ココアプリン・・・当院では目先が変わった新しい味のデザートになりました。

嚥下食の調理はひと手間かかりますが、美味しくて見た目が良い事に加え、できるだけ簡単に作れる献立を考案し、今後も追加して行きたいと考えています。



スパニッシュオムレツ



ハンバーグ



リンゴゼリー



ココアプリン

絵 画 寄 贈

福間小夜子さんから写真にある日本画の寄贈を受けました。題名は、“出番「縁日」”という金魚を描いた150号の作品です。福間さんのプロフィールを簡単に紹介いたしますと、当院での勤務経験もあり、その後日本画を志され昭和61年に島根県展に入選、平成6年には島根県展県知事賞を受賞。平成8年には松江市美展市長賞を受賞、平成14年には上野の森美術館「日本の自然を描く展」優秀賞、平成20年から3年連続で日展日本画部春季展に入選され、島根日本画協会副理事長としてご活躍されております。



しじみ会 (十月中秋号 十一月晩秋号 十二月冬号)

リハビリテーション科 作業療法士 三井 貴史

- ・妻の足 痛みに堪えて 来てくれる
となりの住人 けん一さん
- ・猛暑耐え 季節の花の 咲く便り
やどかりさん 深田さん
- ・厳かに 神々の集う 神事かな
永島さん コスモスさん
- ・さすがだね 十年連続 二百本
[K] さん
- ・食卓に 柚の香充ちて 旅ばなし
京の静さん 句湖人さん
- ・SLの 汽笛響くよ 鯉の街
白イルカさん 川上さん
- ・秋深し 明治維新の 歌に酔う
- ・娘から メールでもみじ あざやかに
- ・母さんの 野菜も並ぶ 道の駅
- ・秋の夕暮れ 赤とんぼ舞う すすきの穂
- ・雑草に 元気出せよと 背を押され

●●● 松江医療センター元気宣言！ ●●●

4回目の健康フェスタを開催

健康フェスタ実行委員会

市民の健康づくり運動を展開するためのイベントと、併せて松江医療センターの診療機能紹介を目的として



【会場の準備風景で、映画のポスターが見えます】

平成19年に開始した健康フェスタも今年で第4回目を10月16日（土）に開催しました。

会場は松江市内最大のショッピングモール松江サティ(株)から無償でお借りしており、営利を目的としない公共性の高い企画と認定して頂き電気代等も無料の取扱を受けております。

初回は同店玄関付近の屋外での実施であり、テントの設営等会場準備の大変さ、また、屋外での開催であり天候の心配もありましたが、2回目以降は店内食堂街の休憩所を貸して頂けるようになり、天候に左右されず、また、空調の効いた爽やかな環境で開催することが出来るようになりました。(感謝)

当日は、11時30分から会場設営開始、木村医長の開会宣言の後12時15分から健康フェスタを開始しました。



【健康相談の風景です】

当初は12時30分からの開始予定でしたが、会場付近で開始を待っておられる方もおられ15分早く開始しました。

健康フェスタ会場は食堂街の真っ直中にあり、12時頃から徐々に来場者も増え会場も賑やかになりましたが、健康フェスタも4回目となると職員も慣れており、特に混乱もなく対応することが出来ました。

今回から検査項目に呼気CO濃度測定を追加したところ、男性喫煙者の来場が増えましたが、検査結果にショックを受けて帰られる方も散見されました。

結果は、来場者数140名・医療相談42件・お薬相談4件・栄養相談13件・アンケート回収63件と、3時間のうちに非常に大勢の来場があり対応した職員は、来年もガンパロウと言うような元気をもらいました。

最後に、例年開始前から待っておられる方がありますが、大概が女性の方で、すこし人生経験を積まれた



【健康フェスタ会場風景】

ご婦人が多いように感じました。

又、パンフレットを配る時に『無料の検診を受けませんか』と声かけをすると、ご婦人の方はパンフレットを受け取り職員の話聞いて、それから、検診を受けるか受けないか返事をされる方が多いのですが、男性の方はパンフレットを受け取らずに通り過ぎる方が沢山おられました。

男性はめんどくさがりなのか、それとも健康に興味がないのか、はたまたシャイなのか、いずれにしてもご婦人は、男性に比べて何事にも積極的で、これが元気(長命)の源かな～と、チョイと思いました。(女性の方ゴメンナサイ)

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成23年 1月 1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 石川 成範	【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー 呼吸器一般	
	若林	若林			木村			
循環器内科	石川		石川			【循環器内科】 石川 成範	循環器内科一般	
消化器内科	三原				石原			
神経内科		下山			足立芳樹	【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	神経内科 神経内科・リハビリテーション	
外科	徳島		目次		荒木			
小児科	久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科	
	齋田	久保田	久保田	齋田	久保田			
発達 専門外来						【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 足立 洋心 中井 勲	【麻酔科】 足立 洋心	
予防接種		(予約)						
肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)			
睡眠時無呼吸 外来					呼吸器内科 担当医(予約)			
息切れ 外来			呼吸器内科 担当医(予約)					
喘息 アレルギー外来	若林 (予約)					池田 (予約)		
咳嗽 外来	若林 (予約)					池田 (予約)		
禁煙 外来					毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)			
アスベスト 外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)				
嚔下障害 外来		下山 (予約)						
神経難病 外来		下山			足立			
筋ジストロフィー 専門外来					下山 (予約)			
セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		

診療時間 8:30～17:15 受付時間 8:30～11:30
自動再来受付 7:30～11:00



独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター
呼吸器病センター
〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号
電話 (0852) 21-6131(代)
医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
医療連携室 F A X (0852) 24-7661

小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査で6,300円)
睡眠時無呼吸 外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
喘息 アレルギー外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 8:30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー 専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色：筋ジストロフィー病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
セカンド オピニオン 外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジスト)の専門医(医長)が担当いたします。